

CASE 9 : 配管の保温

	保温による熱損失低下量	年間重油削減量	燃料削減量(A重油)
省エネ効果	$0.425\text{kW} \times 0.85 \times 3,650\text{H} \times 50\text{m} \times 3.6\text{MJ/kWh} =$ 237,340 MJ/年 (6,450KL)	$374,160\text{MJ/年} \div 36.8\text{MJ/L} \div 0.8 =$ 8,060 L	$8,060\text{L} \times 100\text{円/L} =$ 806千円/年

1 対象設備等の課題

蒸気配管や冷媒配管を保温することで、熱損失を防ぐことができ省エネにつながります。

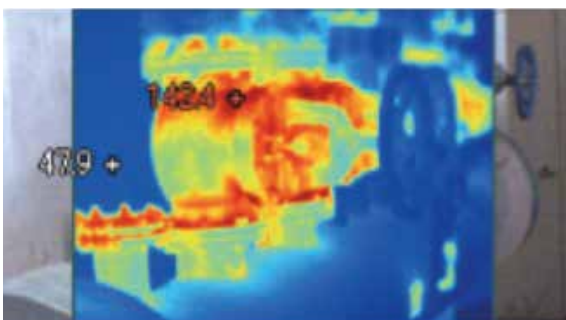
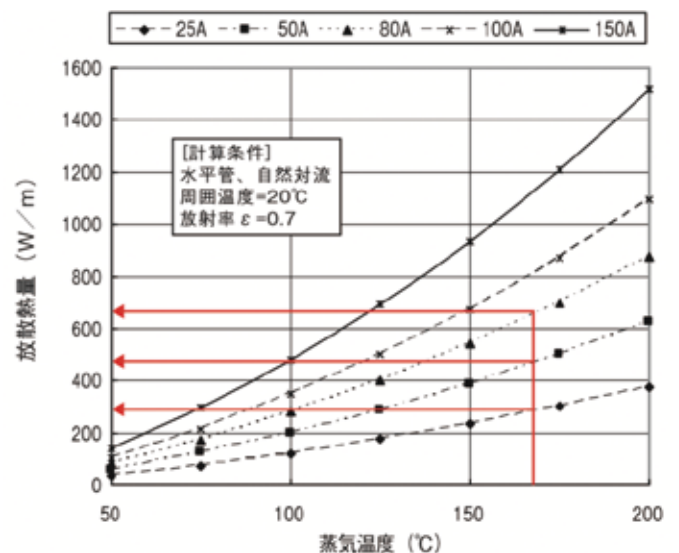
2 省エネ改善ポイント

対象の配管を断熱材等で覆う。また古くなったものを新しく更新することで50%の効果があった事例もあります。

ポイント→熱供給から配管の距離が長い場合や配管の劣化などでも熱を損失しています。配管の経路を点検してみてください。

3 効果試算 (参考)

放熱量(W/m):0.425kW(配管径:50mm)、配管長:50m、保温効率:85%、ボイラー運転時間:3,650H (10時間×365日)、ボイラー効率:80%、燃料(A重油):36.8MJ/L、100円/L



保温していない
 蒸気バルブ(熱画像)



保温カバーを取り付
 蒸気バルブ